

SPECIAL
ISSUE

川端保至先生退任記念特集



川端保至先生退任記念特集編集にあたって

川端保至先生は、平成 16 年 4 月に同志社大学から和歌山大学へ移られて平成 26 年 3 月和歌山大学を退任されるまでの 10 年間、和歌山大学において教授として研究、教育、学内行政等に尽瘁され、本学の発展に大きく貢献されてきました。特に、経済学部内に観光学科を設置し、さらには観光学部として独立する際に準備段階から尽力され平成 19 年から平成 20 年にかけて経済学部観光学科長、平成 20 年から平成 22 年にかけて和歌山大学評議員を務めるなど大学運営に携わられる傍ら、われわれ後に続く経営学者たちをリードし絶えず刺激を与えて下さいました。

本特集は、かかる先生のご恩に少しでもお応えすることができればと観光学部の経営系教員を中心に企画させていただいたものです。

本来であれば、大学紀要一号すべてを退任記念論集とすべきところですが、本紀要が学外に開かれた学術誌であるため、その一部をお借りしての特集となりましたこと、また、ご退任後すぐに献呈すべきところ発行回数の制約があり今となりましたことを編者としては心苦しく思っております。

さて、誠に僭越でございますが、先生の業績の一部をご紹介します。

先生は一貫して会計史、特に 19 世紀ドイツにおける会計及び会社法、税法を研究することとおして、現代の企業会計制度の本質的問題を解明するとともに、今日的課題を歴史的視点から解明することに尽力されてきており、前任校を含め数多くの業績を残されています。

なかでも、平成 13 年に日本会計史学会賞を受賞された『19 世紀ドイツ株式会社の研究』（多賀出版）においては 19 世紀のドイツ株式会社定款、決算報告書をデータベースとし、19 世紀ドイツの株式会社実務を研究されています。本著は 1800 年認可のベルリン製糖会社から 1870 年代の株式会社まで実に 526 もの定款における利益計算書規定と 1940 年代以降の約 250 の営業報告書ないし決算報告及び当時の法令、論文を研究対象とされ、19 世紀ドイツの配当利益計算実務を研究されたものであります。ドイツの生成期株式会社会計実務を通して我が国の企業会計理論の進化、発展に対する重要な含意を示しされており、会計史上重要な意味をもつ業績として学会で高く評価されています。

ところで、会計制度における重要な課題の一つに「果実」をどのように把握するかがあります。20 世紀初頭にドイツにおいてシュマーレンバッハによる「動的貸借対照表」から展開した「動的会計理論」は、果実を企業の資産よりもむしろ年間収入から算出決定することが合理的であると考えます。この考え方を軸として、先生は平成 17 年「19 世紀ドイツの固定勘定制とキャッシュフロー」（『会計』第 168 巻 5 号）を発表されています。本論文は我が国で 2000 年以降に導入されたキャッシュフロー計算書について、19 世紀ドイツの「固定勘定制」と対比することによってキャッシュフロー計算書の目的および維持すべき資本概念について論じられています。さらに平成 19 年 1 月には国際会計論の権威である黒田全紀先生とともに B・フォン・ヴィルモスフスキーの論文を共訳し「1891 年 6 月 24 日の所得税の規定による、建物、機械、事業用什器等の損耗及び鉱山の鉱物資源の実態消費に対する減価（耗）償却」（『経済理論』第 335 号）を記されています。本論文の視点を基に先生は平成 23 年度科学研究費補助金「所得概念生成史の研究－19 世紀ドイツの所得概念論争とローマ法の果実概念－」を獲得されています。

また、現代会計学で注目を集めている概念の一つとして「現在価値」があります。先生は黒田先生とともに「現在価値」と同様の考え方が既に 19 世紀末から 20 世紀初頭のドイツでは税務上の課税所得算出において実践されているところに注目され、同年 9 月に「19 世紀ドイツの現在価値償却の課税実務－1888 年 12 月 19 日プロイセン上級行政裁判所の判決－」（『経済理論』第 339 号）を共訳されています。この共訳は今日の企業における「現在価値」概念を検討する上で、資料として高い価値を有していると評価されています。

そのほか、『和歌山大学観光学部設置記念論集』では本共訳を展開させた論文「19 世紀末ドイツの現在価値計算－プロイセンの鉱山会社の現在価値償却実務－」を発表されています。なお、本研究は平成 20 年日本会計学会第 67 回全国大会にて「19 世紀末ドイツの鉱山会社の現在価値償却の税務実務－1885 年地方税法の現在価値評価から 1921 年ライヒ所得税法改正の取得原価評価へ」として学会報告されています。

先生は教育面においても多彩な活動をなされています。そ

の教育内容は会計学にとどまらず、MS エクセル使用学習プログラムの開発（「あこがれのインドネシア」「遥かなる瀋陽」「韓国語であそぼ!」「2003 年度税務会計練習問題」など）を行うなど教材研究にも力をいれており多くの優秀な人材を輩出されてこられました。

その他、社会への貢献活動も数多くなされています。代表的なものを挙げますと、平成 20 年には国土交通省「観光関係人材育成のための産学官連携検討会議」の委員として、平成 24 年には一般財団法人アジア太平洋研究所における「関西における観光イノベーションモデルの構築」にリサーチャーとして参加するなどその知見を社会に還元されてこられました。

このように先生は我が国の学術研究の向上、大学教育を通じた人材育成、研究教育環境形成のために大学、学部の発展に貢献したのみならず地域社会の発展にも寄与されたとともに、我々に対して大いなる刺激を与えて下さいました。

先生の学恩にどこまでお応えできるかは甚だ心もとない限りではありますが、感謝の意を込めて本記念特集を献呈させていただきます。

平成 27 年 6 月 24 日

記念特集編集代表

和歌山大学観光学部 竹 林 明

川端保至先生 略歴



昭和 23 年 11 月 18 日生まれ

昭和 46 年 3 月	関西学院大学商学部卒業
同 53 年 3 月	神戸大学大学院経営学研究科（博士前期課程）修了
同 56 年 3 月	神戸大学大学院経営学研究科（博士後期課程）単位修得退学
平成 14 年 9 月	博士（経営学）（神戸大学）

民間企業勤務の後、

昭和 55 年 4 月	同志社大学商学部助手
同 56 年 4 月	同志社大学商学部専任講師
同 59 年 4 月	同志社大学商学部助教授
平成 12 年 4 月	同志社大学商学部教授
同 16 年 4 月	和歌山大学経済学部教授
同 19 年 4 月	和歌山大学経済学部観光学科長（平成 20 年 3 月まで）
同 20 年 4 月	和歌山大学観光学部教授
同 20 年 4 月	国立大学法人和歌山大学評議員（平成 22 年 3 月まで）
同 26 年 3 月	和歌山大学観光学部教授 定年退職
同 26 年 4 月	和歌山大学名誉教授

川端保至先生 ご業績

【単著】

平成 13 年 3 月 『19 世紀ドイツ株式会社会計の研究』, (博士 (経営学) (神戸大学) 論文) 多賀出版

【学術論文】

昭和 54 年 12 月 「財思考の発現形態—所得源泉説と複会計制の生成的背景—」
『会計』 116 巻 6 号 (森山書店), 135-150 頁

昭和 55 年 4 月 「19 世紀ドイツ所得税法における事業所得決定の史的概観—税務貸借対照表に対する商事貸借対照表の基準性の原則の萌芽—」
『六甲台論集』 27 巻 1 号, 137-158 頁

昭和 56 年 11 月 『テキストブック会計学 (6) 税務会計』 武田隆二編著
有斐閣、11-19 頁 (第 2 章), 87-99 頁 (第 7 章)

昭和 57 年 3 月 「ドイツ動態論生成以前の株式会社の利益決定—19 世紀プロイセン鉄道会社の定款規定の変遷—」
『同志社商学』 34 巻 6 号, 44-75 頁

昭和 58 年 3 月 「ドイツ動態論生成以前の株式会社の利益決定 (2) —19 世紀プロイセンにおける鉄道以外の株式会社定款規定の変遷—」
『同志社商学』 32 巻 5 号, 108-125 頁

昭和 59 年 3 月 「V・シュトロームベックの会計論—固定資産の取得原価評価および減価償却が商法上はじめて容認された意図を知る手がかりとして—」
『同志社商学』 35 巻 6 号, 45-77 頁

昭和 61 年 12 月 「会計学上の資本と利益—19 世紀ドイツ株式会社会計史からの疑問—」
『同志社商学』 38 巻 4 号, 56-114 頁

昭和 62 年 8 月 「会計学上の資本と利益」
『企業会計』 39 巻 8 号, 76-82 頁

昭和 63 年 1 月 「19 世紀ドイツにおける株式会社の会計監査—プロイセンの株式会社定款の研究—」
『産業経理』 47 巻 4 号, 93-103 頁

昭和 63 年 11 月 「ドイツ初期株式会社の内部組織—19 世紀プロイセンの株式会社定款を手がかりとして—」
『同志社商学』 40 巻 4 号, 168-199 頁

平成 3 年 3 月 「19 世紀前半期ドイツの株式銀行の利益決定—43 社の株式銀行定款の研究—」
『同志社商学』 42 巻 6 号, 44-68 頁

平成 3 年 6 月 「ドイツ動態論生成以前の株式銀行の利益決定—1861 年一般ドイツ商法典成立前の 43 銀行の定款規定と決算報告書の研究—」
『会計』 139 巻 6 号, 81-87 頁

平成 6 年 7 月 「ドイツ商法成立前の株式銀行の償却実務—1861 年普通ドイツ商法典成立前の株式銀行 40 行の営業報告

書の分析—」

『産業経理』54 巻 2 号, 75-85 頁

- 平成 6 年 9 月 「ドイツ初期鉄道会社の会計実務と固定資産の取得原価評価」—1879 年ライヒ上級裁判所の判例の研究—
『同志社商学』46 巻 2 号, 257-282 頁
- 平成 7 年 1 月 「19 世紀ドイツの株式銀行の損益計算—76 銀行定款の計算規定と損益計算書実務—」
『会計』147 巻 1 号, 44-46 頁
- 平成 8 年 7 月 「19 世紀ドイツの生成期保険会社の利益計算—102 保険会社定款と決算報告の研究—」
『社会科学』57 巻, 289-343 頁
- 平成 8 年 9 月 「19 世紀ドイツの鉱山精錬会社の利益計算—ドイツ初期 114 鉱山精錬株式会社定款を利用した初期会計実務の研究—」
『同志社商学』48 巻 2 号, 20-60 頁
- 平成 9 年 1 月 「ドイツ会計の動向」黒田全紀編著『会計の国際的動向』同文館出版, 67-88 頁
- 平成 9 年 3 月 「19 世紀ドイツのガス照明会社の利益計算—ドイツの 23 株式会社定款の利益計算規定の研究—」
『同志社商学』48 巻 4・5・6 号, 89-115 頁
- 平成 9 年 7 月 「19 世紀ドイツの汽船株式会社の利益計算—ドイツの 20 汽船会社定款の利益計算規定の研究—」
『同志社商学』49 巻 1 号, 1-24 頁
- 平成 9 年 11 月 「19 世紀プロイセンで設立された株式会社定款にみられる評価規定—ドイツ商法成立前の株式会社資産評価実務の研究—」
『社会科学』59 巻, 1-35 頁
- 平成 10 年 2 月 「19 世紀ドイツにおける紡績株式会社の利益計算—ドイツの 17 紡績会社定款の利益計算規定の研究—」
『同志社商学』49 巻 4 号, 228-250 頁
- 平成 10 年 10 月 「19 世紀ドイツの製造株式会社の利益計算—ドイツの砂糖・針金・鏡・機械等製造 30 株式会社の利益計算規定の研究—」
『同志社商学』50 巻 1・2 号, 16-41 頁
- 平成 10 年 12 月 「初期株式会社の利益計算規定と維持すべき資本の定義—19 世紀ドイツの 147 株式会社定款に見られる会計実務の研究—」
『会計』154 巻 6 号, 40-54 頁
- 平成 11 年 1 月 「19 世紀ドイツにおける公共・公益株式会社の利益計算—16 株式会社定款の利益計算規定の研究—」
『同志社商学』50 巻 3・4 号, 274-291 頁
- 平成 11 年 1 月 「19 世紀ドイツの建設株式会社の損益計算—21 建設会社定款の利益計算規定の研究—」
『同志社商学』, 50 巻 5・6 号, 432-453 頁
- 平成 11 年 3 月 「19 世紀ドイツ株式会社会計実務の研究—526 定款の利益計算規定と決算報告実務—」
『会計史学会年報』（日本会計史学会）18 号, 29-40 頁
- 平成 11 年 3 月 The History of Profit Recognition: as Defined in Articles of Incorporation by 526 German Companies of the 19th Century, *Year Book of Accounting History Association Nr.18*, pp.139-142

- 平成 12 年 10 月 「明瞭性の原則」, 武田隆二監修『財務諸表論がわかる』中央経済社, 62-70 頁
- 平成 13 年 11 月 「ドイツ初期株式会社の利益計算—固定資産の時価評価から原価評価へ—」
『産業経理』61 巻 3 号, 12-20 頁
- 平成 15 年 11 月 「19 世紀ドイツ株式会社の資産評価実務」『会計』164 巻 5 号, 133-147 頁
- 平成 17 年 11 月 「19 世紀ドイツの固定勘定制とキャッシュ・フロー会計」
『会計』168 巻 5 号, 13-27 頁
- 平成 21 年 1 月 「19 世紀末ドイツの鉱山会社の現在価値償却の課税実務—プロイセン地方税法の現在価値評価から 1921 年ライヒ所得税法改正の取得原価評価へ—」『会計』175 巻 1 号, 94-109 頁.
- 平成 24 年 4 月 「会社法制の萌芽と株式会社会計」千葉準一・中野常男責任編集『体系現代会計学第 8 巻・会計と会計学の歴史』中央経済社, 183-226 頁
- 【その地】**
- 平成 2 年 3 月 「19 世紀プロイセンの株式会社の機関構造—ランドヴェアの所説を手がかりとして—」
『同志社商学』41 巻 6 号
- 平成 2 年 7 月 「R・パッソウ『株式会社監査役会の生成』—ドイツ株式会社監査役会の誕生—」
『同志社商学』42 巻 1 号
- 平成 3 年 11 月 「『ロータス1-2-3』による『会社四季報』を利用した企業比較—簿記会計教育のための企業比較プログラム—」(PC プログラム付き)
『同志社商学』43 巻 2・3 号
- 平成 5 年 7 月 (共訳)『解説西ドイツ新会計制度—規制と実務—』黒田全紀編著 同文館
- 平成 5 年 7 月 (共訳)『ドイツ財務会計の論点』黒田全紀編著 同文館
- 平成 9 年 6 月 『第五版・会計学辞典』神戸大学会計学研究室編「青色申告簿記」(5 頁), 「後入先出法的減価償却」(9 頁), 「所得」(717 頁), 「半額法」(1022-1023 頁)を項目執筆
- 平成 11 年 11 月 「19 世紀ドイツ株式会社定款、決算報告書データベース」構築 (デジタル・アーカイブ構築) (文部科学省科学研究費 (データベース) 補助事業) 和歌山大学
- 平成 13 年 8 月 「MS- エクセル利用学習プログラム『裏くんならこうする!』」(英語・独語等音声 (映像) 付 PC 練習プログラム) (ランダム出題、反復練習) 同志社大学 <http://commerce02.doshisha.ac.jp/~joe/index.html>
- 平成14年
～平成16年 「2002 年度日本税理士会連合会寄付講座 (インターネット講義 <http://commerce01.doshisha.ac.jp/jfcpta/index.html>)
- 平成 15 年 5 月 「2003 年度税務会計論問題練習」(MS- エクセル利用法人税法練習問題) (ランダム出題、誤答問題反復練習等) 和歌山大学

- 平成 16 年 3 月 『韓国語であそぼ!』（MS- エクセル利用韓国語学習プログラム） 和歌山大学
- 平成 16 年 3 月 『はるかなる瀋陽』（MS- エクセル利用中国語（北京語）学習プログラム）」 和歌山大学
- 平成 16 年 3 月 『あこがれのインドネシア』（MS- エクセル利用インドネシア語学習プログラム） 和歌山大学